

2017年6月3日（土）

（多項式版）フェルマーの大定理の証明
ABC 定理の紹介

第101回数学教育実践研究会

千歳科学技術大学 安田 富久一

【 フェルマーの大定理（最終定理） 】

n を 3 以上の整数とする。このとき、

$$a^n + b^n = c^n$$

を満たす正の整数は存在しない。

【 （多項式版）フェルマーの定理 】

n を 3 以上の整数とする。このとき、

$$X^n + Y^n = Z^n$$

を満たす多項式 X, Y, Z で、全てが定数ではなく、どの 2 つも互いに素なものは存在しない。

共立出版社創立 90 周年記念出版 数学講座 数学探検 第 6 巻
山崎隆雄 著 『初等整数論』 数論幾何への誘い
第 2 章 ABC 定理 及びそれに関する内容の紹介

【 ABC 定理 】

A, B, C は実数係数の多項式で、どの2つも互いに素であり、しかも全てが定数ではないとする。

このとき、 $A + B = C$ なら

$$\max \{ \deg A, \deg B, \deg C \} < \deg \text{rad}(ABC)$$

が成り立つ。

【 記号 】

- $\deg A$: 多項式 A の次数を示す。

<例> $A = 2x^3 - 3x + 1$ なら、 $\deg A = 3$

- $\text{rad}A$: A の素因子全ての積を示す。

<例> $A = x^3 - 3x^2 + 4$ のとき、 $A = (x + 1)(x - 2)^2$ なので、

$$\text{rad}A = (x + 1)(x - 2)$$

$B = x^5 - 2x^3 + x$ のとき、 $B = x(x + 1)^2(x - 1)^2$ なので、

$$\text{rad}B = x(x + 1)(x - 1)$$

【 定理 1 】

自然数 p, q, r が $\frac{1}{p} + \frac{1}{q} + \frac{1}{r} \leq 1$ を満たすとき、

$$X^p + Y^q = Z^r$$

を満たす多項式 X, Y, Z で、全てが定数ではなく、どの2つも互いに素なものは存在しない。

この定理の特別な場合として、

p, q, r のどれもが3以上の自然数 n に等しいときが、

(多項式版) フェルマーの定理である。

【 ABC 定理 の証明 】

【 命題 】

- (i) A が定数でなければ、 $\deg A' = \deg A - 1$
- (ii) B が A^n の倍数なら、 B' は A^{n-1} の倍数である (n は自然数)。
- (iii) $AB' = BA'$ であることと、
 $A = cB$ となる 0 ではない実数 c があることは同値。

【 ABC 定理 の証明の流れ 】

- ① $AB' - BA' = AC' - CA' = CB' - BC' \neq 0$ である。
- ② $\max(\deg A, \deg B, \deg C) + \deg D < \deg(ABC)$
- ③ $A_1 = \frac{A}{\text{rad}A}$, $B_1 = \frac{B}{\text{rad}B}$, $C_1 = \frac{C}{\text{rad}C}$ とおくと、
 D は A_1, B_1, C_1 の公倍数である。
- ④ $\deg(ABC) \leq \deg D + \deg \text{rad}(ABC)$

【 ABC 定理 の応用 】

【 定理 1 の証明 】 背理法。

ABC 定理 を適用する

$$\begin{aligned}\max(\deg(X^p), \deg(Y^q), \deg(Z^r)) &< \deg \operatorname{rad}(X^p Y^q Z^r) \\ &= \deg \operatorname{rad}(XYZ) \\ &\leq \deg(XYZ)\end{aligned}$$

$\therefore p \deg X, q \deg Y, r \deg Z$ はどれも $\deg(XYZ)$ より小

$$\begin{aligned}\therefore \deg(XYZ) &= \deg(X) + \deg(Y) + \deg(Z) \\ &< \left(\frac{1}{p} + \frac{1}{q} + \frac{1}{r} \right) \deg(XYZ)\end{aligned}$$

$\deg(XYZ) > 0$ なので、

$$\frac{1}{p} + \frac{1}{q} + \frac{1}{r} > 1 \text{ となり、矛盾。}$$

(証明終わり)

【 その他の応用例 】 次の等式を満たす多項式 A, B を求めよ。

$$A^2 = B^5 + x^2$$

<解答>

- ① A, B, x のどの2つも互いに素のとき、ABC 定理より、
 $\max(\deg A^2, \deg B^5, \deg x^2) < \deg \text{rad}(A^2 B^5 x^2)$

$$\therefore \begin{cases} 2 \deg A < \deg A + \deg B + 1 \\ 5 \deg B < \deg A + \deg B + 1 \\ 2 < \deg A + \deg B + 1 \end{cases}$$

これから、 $0 < \deg B < \frac{2}{3}$ となり、これを満たす整数 $\deg B$ は存在しない。

- ② A, B, x のうちの2つで、互いに素ではないものがあるとき、 $A = x\tilde{A}, B = x\tilde{B}$ とおくと、②は、

$$\tilde{A}^2 = x^3 \tilde{B}^5 + 1 \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

となる。 $\tilde{A}, \tilde{B} \neq 0$ ならば、 \tilde{A}^2 と $x^3 \tilde{B}^5$ は互いに素。ABC 定理より、

$$2 \deg \tilde{A} < \deg \tilde{A} + \deg \tilde{B} + 1, \quad 3 + 5 \deg \tilde{B} < \deg \tilde{A} + \deg \tilde{B} + 1$$

$\deg \tilde{B} < -\frac{1}{3}$ で矛盾。

よって、 $\tilde{A} = 0$ または $\tilde{B} = 0$ 。③より $\tilde{B} = 0, \tilde{A} = \pm 1$ 。

$$A = \pm x, B = 0$$

2017年6月3日（土）

盛りつけで味を添える教材

第101回数学教育実践研究会

千歳科学技術大学 安田 富久一

【 10回ゲーム 】

ピザ、ピザ、・・・、ピザと10回声に出して言った後
質問を出す遊びがある。

このゲームの効果と同じような味を持つ問題

【 問題 1 】 次の各問いの三角関数の和を合成せよ。

① $\sin \theta + \sqrt{3} \cos \theta$

② $-\sin \theta + \cos \theta$

③ $-\sqrt{3} \sin \theta + \cos \theta$

④ $\cos \theta - \sqrt{3} \sin \theta$

【 10回ゲーム 】

ピザ、ピザ、・・・、ピザと10回声に出して言った後
質問を出す遊びがある。

このゲームの効果と同じような味を持つ問題

【 問題 1 】 次の各問いの三角関数の和を合成せよ。

① $\sin \theta + \sqrt{3} \cos \theta$

② $-\sin \theta + \cos \theta$

③ $-\sqrt{3}\sin \theta + \cos \theta$

④ $\cos \theta - \sqrt{3}\sin \theta$

【問題 2】 曲線 $C : y = \frac{e^x + e^{-x}}{2}$ ($0 \leq x \leq 1$) について、

- ① 曲線 C の長さを求めよ。
- ② 曲線 C の長さは 1 より大か小か答えよ。

【問題 2】 曲線 $C : y = \frac{e^x + e^{-x}}{2}$ ($0 \leq x \leq 1$) について、

- ① 曲線 C の長さを求めよ。
- ② 曲線 C の長さは 1 より大か小か答えよ。

<解答>

$$\begin{aligned} \text{① } \int_0^1 \sqrt{1 + (y')^2} dx &= \int_0^1 \sqrt{1 + \left(\frac{e^x - e^{-x}}{2}\right)^2} dx \\ &= \int_0^1 \frac{e^x + e^{-x}}{2} dx \\ &= \left[\frac{e^x - e^{-x}}{2} \right]_0^1 = \frac{e^2 - 1}{2e} \end{aligned}$$

$$\text{② } \frac{e^2 - 1}{2e} = 1.175 \dots > 1 \quad \text{こんなことしなくても！}$$

【問題 3】 次の各問いの極限值を求めよ。

$$\textcircled{1} \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\sqrt{4x^2 - 3x + 1}}{x + 2}$$

$$\textcircled{2} \lim_{x \rightarrow 2} \frac{\sqrt{2x + 5} - 3}{x - 2}$$

$$\textcircled{3} \lim_{x \rightarrow \infty} (3x - \sqrt{9x^2 - 4})$$

$$\textcircled{4} \lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin^2 x}{1 - \cos x}$$

$$\textcircled{5} \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{3^{\frac{1}{x}} - 2^{\frac{1}{x}}}{3^{\frac{1}{x}} + 2^{\frac{1}{x}}}$$

$$\textcircled{6} \lim_{x \rightarrow \infty} \{\log_2 (6x + 1) - \log_2 (24x - 1)\}$$

【問題 4】

下の枠内にA君の数学問題の解答がある。A君の解答について、以下の問いに答えよ。

- ① 嘘をついている箇所があれば指摘せよ。
- ② A君の解答について意見を述べよ。

【問題】

$$\sin\left(x - \frac{\pi}{3}\right) = \frac{1}{2} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

となる x を求めよ。

<解答>

①が成り立つには、 $x - \frac{\pi}{3} = \frac{\pi}{6}$ であればよい。
つまり、 $x = \frac{\pi}{2}$ 。

【 問題 5 】

① $\sin x + \sin y = 2$ を満たす x, y を求めよ。

但し、 $0 \leq x < 2\pi$, $0 \leq y < 2\pi$ とする。

① n を自然数とする。このとき、

$$\sin x_1 + \sin x_2 + \cdots + \sin x_n = n$$

を満たす x_1, x_2, \cdots, x_n を求めよ。

但し、 $0 \leq x_i < 2\pi$ ($i = 1, 2, \cdots, n$) とする。